

令和2年度秋季特別展

まさ

おか

や

え

正岡八重

子規の母、子規一門の母

令和2年10月10日(土)～11月24日(火)



休館日 10月13日(火)・20日(火)・27日(火)、
11月4日(水)・10日(火)・17日(火)

開館時間 10月10日～31日
午前9時～午後6時(展示室入場は午後5時30分まで)
11月1日～24日
午前9時～午後5時(展示室入場は午後4時30分まで)

会場 松山市立子規記念博物館 3階特別展示室

観覧料 個人200円 団体160円
65歳以上100円 高校生以下無料

特典/常設展とセットで特別展の観覧券を購入する場合、特別展の観覧料は2割引
子規博友の会会員が特別展の観覧券を購入する場合、特別展の観覧料は2割引

学芸員によるギャラリートーク・関連講座

《ギャラリートーク》

日時：10月17日(土)、11月1日(日)ともに午前10時30分から50分程度
会場：3階特別展示室 ※聴講には特別展の観覧券が必要
定員：5名程度

《関連講座》

演題：「八重の子規あて書簡を読み解く 一母から子へのメッセージ」
日時：11月22日(日) 午前10時30分から12時まで
会場：1階視聴覚室 ※聴講無料
定員：25名程度

※ギャラリートーク・関連講座は、定員に達した場合は入場をお断りすることがあります。
また、新型コロナウイルス感染症の状況により中止する場合があります。



松山市立子規記念博物館

Tel.089-931-5566

〒790-0857 松山市道後公園 1-30

<http://sikihaku.lesp.co.jp/>

令和2年度秋季特別展

正岡八重

子規は多くの人に愛され、支えてもらったおかげで、難病を乗り越えて数々の文学的業績をあげることができました。そんな子規を支えた人びとの中でも、子規の母、正岡八重（一八四五〜一九二七）は、私たちが子規の人生を考え、語る上で忘れてはならない大切な存在です。

松山藩士・儒学者の大原観山の長女として松山に生まれた八重は、慶応元（一八六五）年、二十歳で藩士・正岡常尚と結婚し、その二年後に子規（幼名は処之助、のちに升）を授かります。子規は大原観山にとって待望の初孫であり、多くの親族が子規の誕生を喜び、祝いました。明治五年に夫の常尚が病死してからは、八重は親族の助けを借りながら子規とその妹の律を育て、明治十六年には子規を学業のために東京へ送り出します。

明治二十五年、八重は律とともに住み慣れた松山を離れ、東京で親子三人の生活を始めます。子規は晩年、子規庵を舞台に精力的な文学活動に取り組みますが、八重は子規にいちばん近くで寄り添い、家事や看護を通じて子規の活動と闘病生活を支えました。物静かで何事にも動じない人柄だったという八重ですが、子規はそんな八重を終生慕い続け、八重のことを俳句や短歌に詠み、また「仰臥漫録」などの文章にも取り上げています。子規の死後も、八重は子規を慕う数多くの門人たちから敬意を込めて「母堂」と呼ばれ、子規の思い出を胸に「その後」を生きる関係者たちの交流の要であり続けました。

今回の特別展では、子規を産み、育て、晩年の闘病生活と文学活動まで、子規のすべてを静かに支え続けた母・正岡八重にスポットをあてます。八重の自筆の手紙や子規との生活を物語る資料、子規の門人や親族たちとの関わりを物語る資料などを展示し、母・八重の知られざる生涯と人柄、また八重や子規を温かく包んだ門人や親族たちとの絆を紹介いたします。

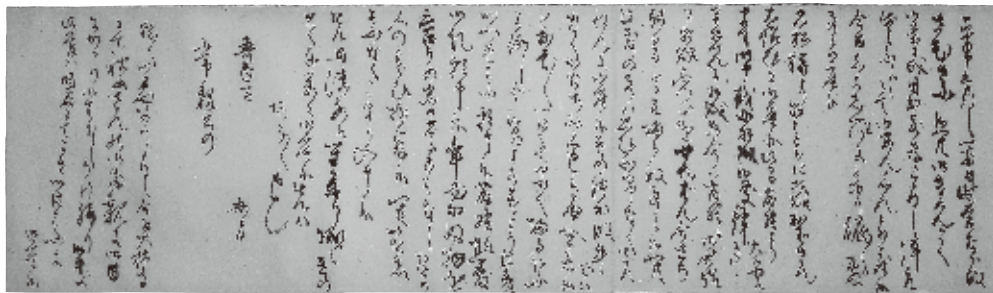
子規の母、子規一門の母



正岡八重、律、忠三郎（大正3年6月7日）

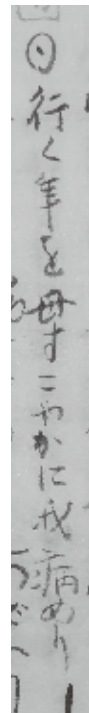


正岡八重、加藤拓川、秋山好古ほか（大正7年12月）

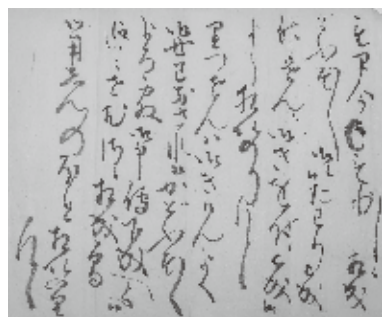


正岡八重の子規あて書簡（明治19年5月2日）

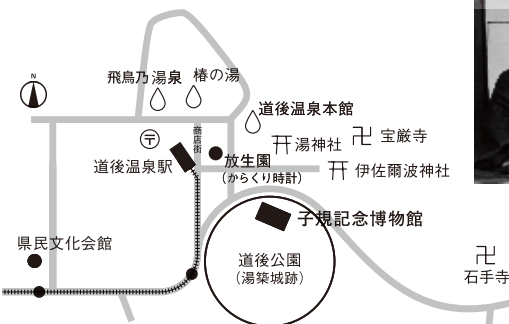
子規句「行く年を母すこやかに我病めり」



正岡八重と矢田挿雲（大正8年5月）



大原重の正岡八重あて書簡



道後温泉駅より徒歩約5分／道後公園駅より徒歩約5分
※公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館

TEL 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園1-30 <http://sikihaku.lesp.co.jp/>

